

●カスミサンショウウオの取組について * 成体の発見 先週号で生息池の整備を行い、もう一つの池では掘削を行い、池の面積を大きくするなど、環境が大変化したので、産卵はもとより成体の発見に随分と気をもみました。成体が発見出来て胸を大きくなでおろしました。そして3月1日には、ついに卵嚢が発見されました。それも14個ということでした。加えて成体も新たに1匹発見できました。かなり生息池の様相が変化して荒らされたにもかかわらず、産卵が行われたことは、この池の周辺に産卵適地が見つからないということではないかと推察できます。これまで以上に真剣、慎重に対応が求められることになります。新たな構えで対処が必要になってきます。 * 卵嚢の発見 10年前(2007年)に卵嚢を発見して幼生が誕生して見守りましたが、5月1日以後その姿を見ることは全くなりませんでした。そして10年間調査を続けてきましたが、同じ山の尾根が続く、かなり離れた場所で卵嚢を発見し、翌年(2017年1月)に成体に出逢うことになります。そして卵嚢24個の発見に至ったのです。翌年12月に調査観察時での万一の事故防止のため急斜面の巨大ナラ枯れ木の伐採の結果、かなり広範囲に荒らすことになりました。それにもかかわらず成体の発見に続き卵嚢の発見になり、大きな驚きとなっています。 * 生き物の出現が続く 撮影回数アライグマ6回 タヌキ4回 狐3回 ノウサギ2回 鳥(鳩?)1回 無撮影5回との集計から 卵嚢が確認されたので生き物からの保護対策の緊急性が増しているのではないのでしょうか。里山の会では、生き物の接近が連夜続いているので、屋根付きの保護柵を検討しましたが、相当の経費が見込まれ、さらに大掛かりな施設となるので、生き物を捕獲するのではなくて、至極一般的な方法として、追い払う対策が簡易との結論に至りました。早速太田さん金田さんの検討を受けて、『電気柵』を張ることになりました。3月8日に設置を計画しています。これによって、昨年とは全く違った保護が実施されることになります。効果に期待したいものです。

●第23回自然と環境講演会 3日 京田辺市中央公民館 会場準備に太田さんが率先して取り組んでいただきました。玄関には立て看板、会場正面に横幕の貼り付け、そして、パソコン設定やパワーポイントの設定など、至れり尽くせりの準備をいただきました。これまでは昼時間には会場への出入りが出来ないので、困っていましたので、午前中の時間も借り上げておきましたので、時間を気にせずに作業が出来ました。この日は4月の一斉地方選挙の立候補予定者への説明会になっていたもので、玄関は関係者が大勢集合されていました。特に市議会議員選挙では新人議員が多いとのことで熱気がありました。この中をかき分けての入場になりますので、驚かれていたようです。開始時間3分前に開会挨拶を播川さんから始めていただきました。予定の30分には、本日のメイン講演の京都大学の田住真史君の講演を始めました。彼は昨年、初めての中聖牛の設置からチームに加わって、竹蛇籠の製作から頑張ってくれて、中聖牛の設置位置確定の測量や行って、完成した後はドローンを使って地形の撮影を行い、撮影写真をもとに全体図の編集を行って、成果や資料の制作を行ってくれてきました。夏の暑い河原で、雑草の生い茂る中をかき分けて測量杭を探し出し、対岸との基準線の設置に取り組んでいました。大変な苦勞を積み重ね、その熱意に頭が下がります。2年連続の研究成果の発表となったものです。

今回発表されたレジメはスライド68枚が製作されていました。講演時間は当初15分ぐらいとの連絡でしたが、1時間15分間を要する説明発表となりました。スライドではドローン映像が30枚で、製作した図表が表8枚、撮影写真は100枚を使用した非常にわかりやすいものでした。参加された皆さんは口々に素晴らし講演だったと感想が寄せられていました。機会があれば、さらに多くの皆さんに伝えられたらと思います。大いに活用していただきたいものです。

次に太田敏之さんのカスミ池の生き物撮影ビデオの発表が続きました。昨年12月にナラ枯れになった巨木の伐採からかかわって、撮影カメラの設置、さらに池周辺の整備に取り組み、約2か月間の成果についての発表でした。連夜、生き物が池を訪れてきている姿を撮影したもので、素直に現地を表現したものです。この発表を通じて、かなりの大型の生き物が生育する実態が明らかになりました。いかにこの地域が大型動物の生活、食料が手に入りやすい地域である証明するものです。あちこちでイノシシやサル、シカなどによ

る農作物被害が取りざたされていますが、今回の撮影からして、いかに多くの生き物が生活しているかという証明になるものです。まさに普賢寺地域は希少植物が数多く生育し豊かな環境を持っている地域であることがわかっていましたが、今回のわずか数日間の撮影でも大型動物が多く生育できる環境であることも明らかになりました。まさに京田辺市の環境面から見た京田辺市の宝物的な場所だと断言できるものでしょう。

感想文が届きましたので紹介いたします。今回で3年目になった竹蛇籠制作は昨年同様大変な作業でしたが、福井さんを先頭に里山の会の主力メンバーが老体に鞭打って？頑張ってください無事、竹蛇籠 30 個、中聖牛 3 基を作り上げられたことは素晴らしい事でした。田住さんはその中聖牛による河床の変化、それによって環境がよくなり生育できた魚や昆虫たちの事も綿密に調査してデーターとしてまとめていただき、興味深くお話をお聞きしました。なんとなく川の流れや川岸の変化は感じられていましたが、このようにデーターとしてまとめられ、今回のお話で環境の改善が確かなものになっていることに確信を持ちました。「今後調査が継続されていけばいいな」と思いました。

●2019 年度（平成 31 年）の木津川希少種生育調査管理業務の公募が始まる

調査 36 か所、除草 15, 000 平方メートル、この業務がホームページで公示されました。18 年度は 13, 000 平方メートル・27 か所の調査除草の作業でした。今回の公示では、これをはるかに上回る規模となっています。2月27日（金）淀川河川事務所に公示され資料を受け取りに伺いました。それによると申請締め切り日3月12日5時です。早速6日の定例事務局会議で2019年度の業務の申請について議題にしました。

この業務の受注要件に河川協力団体と明示されています。この資格と事業目的の希少植物の保全に合致するので申請して頑張ろうとする結論に至りました。今年は36か所15, 000平方メートルの除草と生育調査となります、これは年間2回の実施で、その実績書の提出となります。社員各位と会員各位のご協力を強くお願いいたします。木津川におけるレッドデータブック記載植物、ギンラン特に絶滅寸前種の保全のお手伝いをお願い申し上げます。

●自然環境保全京都府ネットワークの年次総会・意見交換会 3月10日（日）10時～12時 石清水八幡宮研修センターにご参集ください。また午後の自然観察会13時～ 男山山頂から下山コース 申込制先着 60 人 3 班で観察

●木津川展 2・3日 連タコづくり 展示（70 枚）塗り絵 野鳥観察会 残念石探索の取組み。

9日10日には最終の取組ですので見逃された皆さん方には、ぜひご覧にお越しください。

出展者一同お待ちしております。

●河川レンジャー運営委員会 27日精華町かしのき苑で開催された 次年度の活動予定の発表。当日の出席委員は京都府北土木事務所 宇治市 城陽市 八幡市 京田辺市 木津川市 井手町 久御山町 精華町の関係者及び川河川事務所管理課長 木津川出張所長 光田重幸委員長 播川委員と事務局5人 レンジャーからは中西、村上、山村、大釜、山田、山村の出席で行われました。

●里山農園では大きくなってきたエンド豆の手作り作業を行いました。近くの池では貴重種のアカガエルの卵合計5塊を確認できました。里山農園周辺ではこのアカガエルがしっかりと生育しています。

●第 22 回総会の第 3 回理事会を28日（木）13時開に開催いたします。事業報告や決算報告 次年度の事業計画及び予算案、新役員体制などが議案となります。理事各位には万障繰り合わせご出席をお願いいたします。

●次年度会費納入月間として取り組んでいます。ご理解いただいた皆さんから、続々と次年度の会費納入が連日届いております。皆さんにはご協力お願いの文章をお届けいたしましたが、よろしくご協力をお願いいたします。郵便局から振り込みをお願いいたします 口座番号は 「00950 7 46840」でございます 次年度もさらに充実した活動を目指し頑張りますので、よろしくお願いします。また。新しくご加入いただける会員さんを御勧誘お願いいたします。